

カンキツ新品種「口之津32号」の県内における生育特性と果実品質					
[要約] カンキツ新品種「口之津32号」は、果皮が滑、果皮色が濃橙色、「アンコール」に似た香りを持ち、糖度12度前後となる高品質の品種である。本県での成熟期は1月下旬で、「せとか」に比べて成熟が早く、寒害による果実の障害も少ない。					
担当部署	果樹部・果樹栽培チーム			連絡先	092-922-4946
対象作目	果樹	専門項目	品種選定	成果分類	品種選定

[背景・ねらい]

甘夏柑、イヨカンに代表された中晩生カンキツははく皮が困難で酸が高いことなどから消費者離れが進み、「不知火」、「はるみ」等の新品種への更新が進められている。今後カンキツ経営の安定を図るためには、食味が良く、産地の立地条件や販売戦略に応じた品種への更新と他産地に先駆けた商品化が必要となっている。

独立行政法人果樹研究所育成のカンキツ第8回系統の中で登録申請されている「口之津32号」は、「せとか」と同じ「清見×アンコール」×「マーコット」の交配組み合わせで、本県での普及が期待されている。そこで、福岡県における「口之津32号」の生育特性や果実品質を明らかにする。(要望機関名：福岡普(H7))

[成果の内容・特徴]

1. 「口之津32号」の樹勢は中、枝はやや密生し、生育が旺盛な枝に短いとげが発生する。果実は11月上旬から着色を始め、12月上旬には完全着色となる。成熟期は1月下旬で、「せとか」の2月下旬よりも1ヵ月ほど早い。隔年結果性は顕著ではなく、収量性は中程度である(表1、一部データ略)。
2. 「口之津32号」の果形は扁球形、果皮は滑、濃橙色である。はく皮性は「せとか」よりも良い。香りは強く、「アンコール」似である。糖度は12前後で、クエン酸含量の減少は早く、1月下旬には1.0g/100mlとなる。種子は10個前後であるが、中晩生カンキツに隣接しない園地では少ない。寒害による食味の悪化、果皮障害は少ない(表2、表3、表4、一部データ略)。

[成果の活用面・留意点]

1. 福岡県果樹推奨品種選定の資料として活用できる。
2. 秋季の降雨により裂果が発生することがあるので、急激な土壌水分の変化を避け、果皮が脆弱となるような着果過多に注意し、早期摘果を実施する。
3. 夏秋季に乾燥が続くと減酸が進みにくいため、かん水を実施する。

[具体的データ]

表1 「口之津32号」の樹および生育特性

品 種	樹勢	枝の 粗密	枝の とげ	着色期		成熟 期
				始め	完全	
口之津32号	中	竹密	少・短	11月上旬	12月上旬	1月下
せとか	中	竹密	少・短	11月上旬	12月上旬	2月下

表2 「口之津32号」の果実の特性

品 種	果実の形	果 皮		はく 皮性	香 り	種子 数	無核 果率	寒害
		色	粗滑 硬さ					
口之津32号	扁球形	濃橙	滑 中	中	アコール	個 10	低	少
せとか	扁球形	橙	滑 中	竹難	アコール	5 ~ 10	中	中

表3 「口之津32号」の果実品質

品 種	着色 程度	果皮 色	浮皮 程度	果 形		果実 重	果肉 歩合 (%)	糖度 (Brix)	クエン 酸含量 (g/100ml)	甘味 比	
				縦径 mm	横径 mm						
口之津32号	9.8	9.9	0.0	55.8	76.7	137	185	83.5	12.3	1.00	13.4
せとか	9.1	7.5	0.0	57.7	75.9	132	189	82.2	11.7	1.12	11.0

注) 1. 果実分析は平成14、15年1月20日実施、果皮色はカラーチャート指数

2. 果形指数は果実横径 / 縦径 × 100

3. 糖度、クエン酸含量は日園連酸糖度自動分析装置使用

表4 糸島地区での「口之津32号」の果実品質

圃場 場所	着色 程度	果皮 色	浮皮 程度	果実 重 (g)	果形 指数	果肉 歩合 (%)	糖度 (Brix)	クエン 酸含量 (g/100ml)	甘味 比	種子 数
糸島	9.6	9.7	0.0	188	153	81.5	11.4	0.99	12.4	1.2
筑紫野	9.6	10.0	0.0	201	138	83.3	12.5	0.97	14.8	16.6

注) 1. 果実分析は平成13、14年1月20日実施

2. 糸島：志摩町現地ほ場、筑紫野：場内ほ場

[その他]

研究課題名：第8回農林水産省育成系統適応性

予算区分：経常

研究期間：平成14年度（平成11～14年）

研究担当者：松本和紀、牛島孝策、矢羽田第二郎、巢山拓郎